兵庫県立甲山森林公園における 親子で楽しむ自然遊びガイドブックの作成について

進藤 領馬1), 嶽山 洋志2), 美濃 伸之2)

Creating a nature play guidebook for parents and children to enjoy at the Kabutoyama Forest Park

Ryoma SHINDO $^{1)}$, Hiroshi TAKEYAMA $^{2)}$, Nobuyuki MINO $^{2)}$

[Abstract]

In recent years, it has become important for parents and their children to experience nature. However, the program currently held at the park requires preparation and knowledge. Therefore, easily experiencing its contents when the program is not being conducted is not possible. Hence, we created a nature play guidebook at the Kabutoyama Forest Park to make nature play easy for parents and children. We referred two "Waldkindergarten" active in this park, involving nature play on a daily basis. After investigating the nature play here, we found five characteristics: "playing as a tool to play the nature," play with discovery," play in sensation," play with adventure," and "play with making." We made a guidebook offering the following: (1) suggestions for the kind of play that can be played at each point, (2) play that does not need preparation or knowledge, (3) showing how parents should be involved with their children during play.

Key words: Hyogo Prefectural Kabutyama Forest Park, natural playing, Waldkindergarten

1. はじめに

近年,兵庫県では子どもの環境学習や自然体験に関する計画が新たに策定されている.具体的に新兵庫県環境学習環境教育基本方針(2016)では,生活に身近な公園等で親と子が共に自然に親しむことが求められ,またひょうごパークマネジメントプラン(2016)では,幼児や子育て世代が学び・遊び・交流できる機能を持つ地域の子育て支援拠点となる公園づくりが必要とされている。このように,親子で体験可能な事業の検討が県立公園で求められているといえる.

そんな中、ひょうごパークマネジメントプランで子育て支援型の県立公園として位置づけられている甲山森林公園では、2018年10月にパークセンターなどがリニューアルされ、多目的ルームや授乳室、子ども用トイレ、工作室、起伏のある芝生広場などが整備された、今後は親子で体験可能なコンテンツをいかに作成していくかが求められる。

そこで本プロジェクトでは、親子で気軽に自然遊び

ができるよう「自然遊びガイドブック」を作成することにした。なお、ガイドブックを制作した理由は、① 甲山森林公園の管理者から遊びやすい場所のマップを作る必要があるとの意見があったこと、②ガイドブックは持ち帰ることができ、公園を離れても繰り返し使ってもらえることから、リピート客を増やすことができる可能性があることによる.



図-1 森のようちえん「くるみ」の活動の様子

- 1) 神戸市公園緑化協会, Kobe Parks and Greenery Association
- 2)兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科, Hyogo Prefectural Awaji Landscape Planning & Horticulture Academy / Graduate School of Landscape Design and Management, University of Hyogo

2. ガイドブック作成の流れ

2.1 ガイドブック作成に参考にした活動

ガイドブックの作成に当たっては, 「森のようちえ ん くるみ | と「森のようちえん さんぽみち | の活動 を参考にすることとした、森のようちえんとは、自然 体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教 育の総称であり(森のようちえん全国ネットワーク連 盟, http://morinoyouchien.org/aboutmorinoyouchien),両者とも園舎は持たず、主に甲山 森林公園の中で保育を行っている(図-1).

森のようちえんを参考にした理由は2点ある. 1点 目は、日常的に森にある素材を用いて自然遊びが展開 されているので、イベントでなく日常的な遊びを参考 にできることである. 2点目は子どもの特性を理解す る保育士と、自然活用の理解に関する日本自然保護協 会が認定する自然観察指導員の2つの資格を持つた め、自然遊びを行う際の大人から子どもへの働きかけ 方が参考にできることである.

2.2 ガイドブック作成の流れ

図-2にガイドブック作成の流れを示す.

まず本公園における自然遊びの特徴を明らかにする ため、森のようちえんが運営しているFacebookのテキ ストおよび画像の分析と、実際の活動への参与調査を 行った、さらに、本公園で自然遊びに取り組んでいる 活動家と一緒に園内を歩き、実施可能な自然遊びを抽 出した. 以上を踏まえ自然遊びガイドブックを作成し た、さらに、それを自然遊びに長けたみやっこキッズ パークのプレーリーダーに評価してもらい、得られた 意見を参考に自然遊びガイドブックの修正を行った.

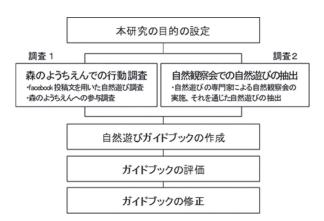


図-2 ガイドブック作成の流れ

3. 自然遊びの調査方法

3.1 森のようちえんでの保育士と幼児の行動

3.3.1 Facebook投稿文のテキスト分析

「さんぽみち」の運営団体であるネイチャーマジッ クのFacebookに日々の活動が投稿されている. その文 章を分析し、日常的に行われている自然遊びにどのよ うな特徴があるかをまずは明らかにした.調査対象と した投稿は甲山森林公園での活動のみに絞るととも に、期間は2014年4月~2017年11月の全200件を対象と した. 解析ではフリーソフトのKH Coderを用いて20回 以上文章に出てきた単語を把握するとともに、Ward法 による階層的クラスター分析を適用することで、出現 回数の多い単語同士の組み合わせから、森のようちえ んにおける自然遊びの特徴を定量的に把握した.

3.3.2 Facebook投稿写真を用いた自然遊びの内容把握 前述したネイチャーマジックの投稿には、文章のみ でなく写真も掲載されている。そこで、それらの写真 を見てどのような自然遊びがされているかを確認し

た、また、確認された自然遊びを3.1.1の解析で判明 した特徴ごとに振り分け表にまとめた.

3.3.3 森のようちえん「くるみ」への参与

実際の森のようちえんに参加し、幼児の自然遊びを 観察した、対象団体は「くるみ」と「さんぽみち」の 2 団体で、6月26日、9月27~30日、10月20日の計6 日間参与調査を行った. 観察内容は, 遊びの内容と場 所、保育士の働きかけ方とした、分析は3.1.2の Facebook投稿写真の調査と同じく、観察で確認された 自然遊びをその特徴ごとに振り分け、その遊びを表に まとめた.

3.3.4 自然観察会からの自然遊びの抽出

自然遊びの内容を充実させるため、森のようちえん の参与調査等で見られた自然遊び以外にも遊べる内容 を把握することにした. 方法は甲山森林公園で活動し ている自然遊びの指導者に自然観察会(12月13日)を 実施してもらい、管理事務所スタッフと一緒に現地を 歩きながら、自然遊びの抽出を行った.

4. 自然遊びの調査結果

4.1 森のようちえんでの保育士と幼児の行動特性

4.4.1 Facebook投稿文からみた自然遊びの特徴

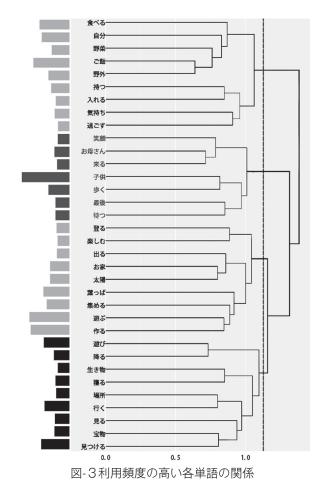
表-1に抽出できた出現頻度の高い単語とその出現回 数を、図-3に利用頻度の高い各単語の関係を示す.

表-1より名詞で最も多いのは「子ども」の85語で、 「自分(49)」という語も子どもを指していることか ら, 主役が子どもであることがわかる. 自然素材とし ては「葉っぱ」が46語と多く、葉っぱを使った遊びが 多く行われていることがわかる。動詞をみてみると

表-1 出現頻度の高い単語(上位10位)とその出現回数

名詞	
子供	85
ご飯	64
自分	49
葉っぱ	46
遊び	45
野外	37
お家	34
太陽	34
野菜	31
お母さん	26
気持ち	26
宝物	26

動詞		
遊ぶ	71	
作る	69	
食べる	53	
見つける	50	
行く	44	
集める	40	
歩く	37	
持つ	32	
降る	27	
見る	25	
降る	27	



「作る」「食べる」「見つける」といった遊びが50語 以上と多く、これらの活動が多く展開されていること がわかる。

図-3より利用頻度の高い各単語の関係を捉えると、まず①の語群は"食べる""野菜""ご飯"などから食体験を示しているといえる。ただしテキストをみると"今日のお野菜は赤に白、緑にオレンジと彩り豊かです""ご飯もおみそ汁もいいにおい"など、五感体験も含まれていることから、「食を中心とした五感体験」として整理することとした。次に③の語群はさら

表-2 確認できた自然遊びと親から子への関わり方の一例

発見遊び	親から子への関わり方
木の柵に登って森をのぞき込む	「何がいるかな?」など言葉をかけながら一緒に探してみる. 子どもが何かを発見したときは「よく見つけたね」と 共感してあげる.
池をのぞき込んで 亀や鯉を見る	「池の中に何がいるかな?」と、子どもに聞いてみる。子 どもが何かを発見したときは「よく見つけたね」と共感し てあげることが大事。
高い場所から海や町を見る	「ここから海が見えるよ!」と言葉をかけてあげる。自分たちが住んでいる場所が見えるかもしれない。子どもが何かを発見したときは「よく見つけたね」と共感してあげることが大事。
五感遊び	親から子への関わり方
ヤマモモの実を落 とし、それを食べ る	みくるま橋のところからだと小さな子どもでもヤマモモの 実を採ることが出来る. 高い場所にあるヤマモモの実は 親が採ってあげる.
雨の日に水、泥遊びをする	雨でぬかるんだ土を触ってみる. 普段さわっている土とは違う感触. 自発的に子どもたちは遊ぶので親は見守る.
見たて遊び	親から子への関わり方
斜面を滑り降りる	「滑り台みたいな坂だね、ちょっと滑ってみようか」と、先に滑ってみせることで子どもたちは安心する。 危ない枝や石があればそれを取り除くことも大事.
ツルを使って電車 ごっこ、綱引きな どをする	ツルは他にも縄跳びをしたり、輪っかにして遊んだり、 色々使うことができる.子どもと一緒に何に使えるか考 えてみるのもいい.
冒険遊び	親から子への関わり方
斜面を滑る	「滑り台みたいな岩だね、ちょっと滑ってみようか」と、先に滑ってみせることで子どもたちは安心する。また、同時に危ない枝や石があればそれをどけることも大事。
木登り	「ここに足をかけて、こう登るんだよ!」と登り方を教えてあげる.「がんばれがんばれ!」と応援することも大事.
作り遊び	親から子への関わり方
葉っぱのたたき染	葉っぱをハンカチの上に並べて、石でカチカチたたいて染めて遊ぶ.「色が写るかなー」などの声がけも大事.

に3つのカテゴリーに分類でき、まず"登る" "楽し む"から"木や岩に登る"遊びが確認できたことか ら, 「冒険遊び」とした. また"出る" "お家" "太 陽"の語群で特徴的なこととしては"石の間のお家" や"大きな木のお家"など、自然を遊び道具に見立 て、それに"出たり" "入ったり" して遊んでいるこ とから「見立て遊び」とした. さらに"葉っぱ" "集 める" "遊ぶ" "作る" は、 "大きな葉っぱを見つけ てウサギさんになったり""キレイな葉っぱで飾り付 け"をしたり、"葉っぱで色水つくり"をしたりする 遊びが確認できたことから「簡単なクラフトをする遊 び(作り遊び)」とした. 最後に④の語群は"生き 物"を"獲っ"たり、"宝物(木の実や石など)"を "見つけ"たりといった遊びであることから「発見遊 び」とした. なお、②の語群はお母さんや子どもたち の関係をあらわしていたが、今回の目的は自然遊びの 特徴を把握することから省略した. 解析の結果, 以上 5つの遊びがあることがわかった.

4.4.2 Facebook投稿写真に現れていた自然遊びと 森のようちえんへの参与調査で確認できた自然遊び

表-2に確認できた自然遊びと親から子への関わり方の一例を示す.

各調査で抽出できた自然遊びを5つの特徴ごとに振り分けたところ、「発見遊び」では池を覗き込んで鯉 や亀を見つけるなどの遊びが16個、「五感遊び」では

表-3自然遊びの指導者による活動例

五感遊び		
・食体験:ナワシログミ, ヤマボウシ, ナツハゼ, サルトリイバラの実		
・匂い体験:クスノキやクサギの葉		
・触体験: ムクノキ, ギシギシ, モチツツジの葉や花		
見たて遊び	作り遊び	
カクレミノの葉でじゃんけん	ススキの葉を飛ばす	
・アメリカセンダングサを用いた ひっつき虫遊び	・ツバキの葉の笛	
	・ツバキの葉の草履	
・エノコログサの穂の部分をにぎる遊び	・アケビのツルで簡単なリースを作る	
・モミジの種を投げる	・ クロマツの葉の弓矢	
	・ ササの葉を編む	

ヤマモモを落としたり自分で取ったりして食べる遊びが6個,「見立て遊び」では枯れ葉をプールのように使って埋まったり散らしたりして遊ぶなどの遊びが12個,「冒険遊び」では木登りなどの遊びが8個,「作り遊び」ではシロツメクサで冠など作るなどの遊びが2個確認できた.

4.2 自然観察会で確認できた自然遊び

以上の結果の中で「五感遊び」と「作り遊び」は抽出数が少なく、これらの充実を図ることを目的に、普段甲山森林公園で自然遊びを行っている指導者を呼び観察会を実施した。結果、確認できた遊びは全部で19個であった(表-3参照)、具体的に、「五感遊び」ではムクノキの葉はざらざらしているので爪やすりの代わりに使ってみる、「作り遊び」ではクロマツの葉で弓矢を作って飛ばすなどの遊びが見られた。

4.3 考察

以上の自然遊びの内容を見てみると、公園にあるヤマモモや土、ツルを使ってその場で遊ぶ、坂や木という地形をそのまま使って遊ぶなど、特に事前準備をしなくても遊ぶことができると分かった。一方、食体験など、専門知識が必要な遊びも一部見られた。しかし専門知識がなくとも、池や森を覗き込んで何かを発見するような「発見遊び」や、坂を滑ったりツルをロープ代わりに使ったりする「見立て遊び」など、工夫次第では多様な遊びを創造できると考えられる。

親の関わり方としては、先に坂を滑って子どもに見せるなど親自身が率先して遊んでいること、坂を滑る際、危険な石や枝を取り除くなど安全に目を向けていること、森や池を覗いて「何がいるかな?」や「よく見つけたね」と興味を引いたり共感したりする言葉がけを多く用いていることが確認できた.

5. ガイドブックの作成

自然遊び調査の結果を参考にして,ガイドブックを 作成した(次ページ参照).以下にガイドブックの特 徴を示す. まず、ガイドブックのサイズはA5サイズで、容易に持ち運んで遊べるようにした、次に、1、2ページ目にはガイドブックについての説明、遊びをする際の注意、遊びの特徴を掲載した。「このガイドブックを使えば親と子で一緒に自然遊びを行うことができる」、「ガイドブックには、準備や専門知識を必要としない遊びが載っている」、などの内容を記載し、本ガイドブックの趣旨を伝えることとした。また、自然遊びの調査で判明した5つの遊びと、それぞれがどのような遊びかということも記載した。

さらに3,4ページ目には,遊びの名前を列挙し,その遊びを行うことのできる場所を示した地図を載せた.地図上の番号と,それに対応する遊びが書いてあるので,どこで何の遊びをできるかが分かりやすくなっている。また,公園の広範囲に渡って遊びが配置されているので,公園を広く使って遊ぶことができると期待される.

その後のページでは遊び内容を詳しく解説しており、地図上に載っている遊びの番号と遊びの名前、所要時間と遊びの難易度、遊び方の例、遊ぶ際に親がどう子どもに関われば良いか、という情報を載せた、遊び方を書くことで、自然遊びを知らない親子でも自然遊びを体験でき、遊ぶ際に親がどう子どもに関われば良いかを書くことで、親子での自然体験が促進されると期待できる。また、イラストを使うことで遊んでいる姿を想像しやすくし、場所の写真を示すことで遊ぶ場所を特定しやすくした。

なお、2018年1月18日にみやっこキッズパークのプレーリーダー1名からガイドブックの内容についてコメントをもらった。その結果、「(親の役割が必要というのは)そのとおりだと思う。この内容で良いと思う」という回答を得られた。また、他に掲載すべき情報はないか尋ねたところ、「遊びは自己責任で、という文言はある方が良い」、「公園には他のお客さんもいるので、迷惑にならないように、などの注意書きもあったほうが良い」との意見が得られた。

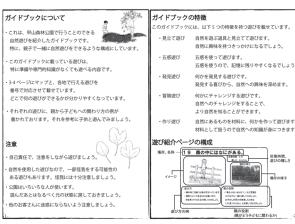
6. まとめ

今回の調査では、5つの特徴的な遊びが見つかり、それをガイドブックに反映することができた。しかし、まだ実際に公園で配布、実用されるまでには至っていない。今後、甲山森林公園の管理者と協議しつつ、より良いものにするとともに、実際に使ってもらえるようなガイドブックにしたいと考えている。

参考文献

兵庫県 (2016) 新兵庫県環境学習環境教育基本方針 兵庫県 (2016) 兵庫県立都市公園の整備・管理運営 基本計画 (ひょうごパークマネジメントプラン)







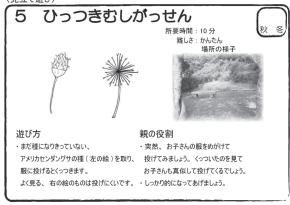


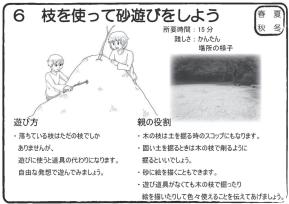


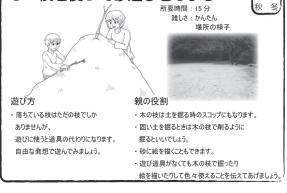






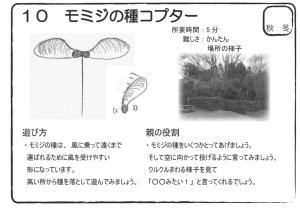




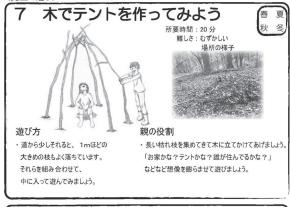


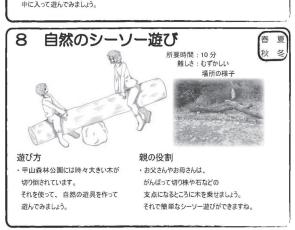












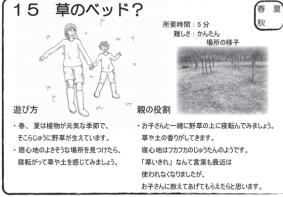
〈五感遊び〉



〈五感遊び〉

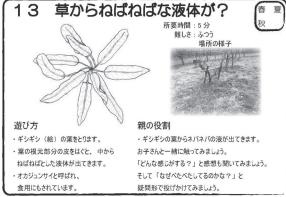


〈五感遊び〉

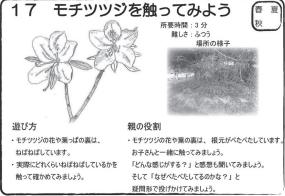




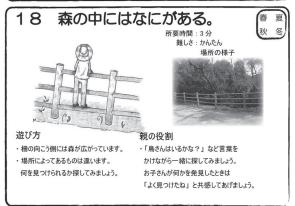
〈五感遊び〉





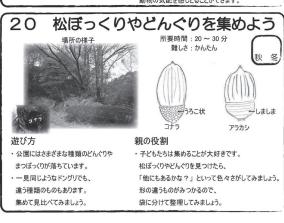




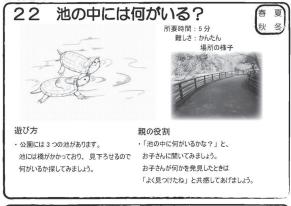


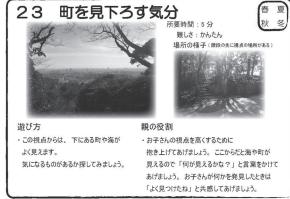
〈発見遊び〉



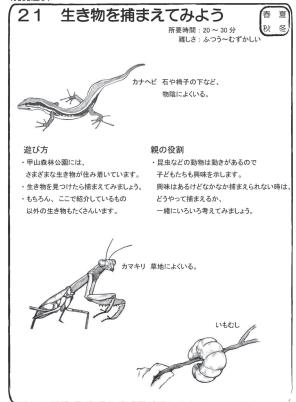


〈発見遊び〉

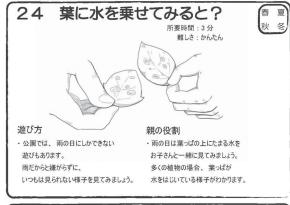




〈発見遊び〉



〈発見遊び/冒険遊び〉

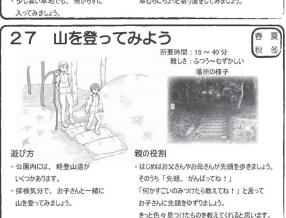




〈作り遊び〉

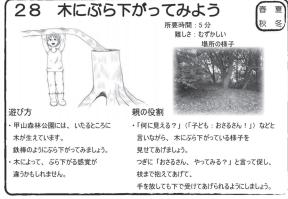


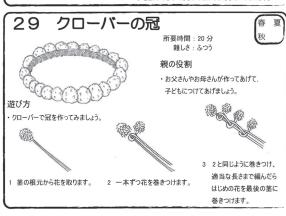




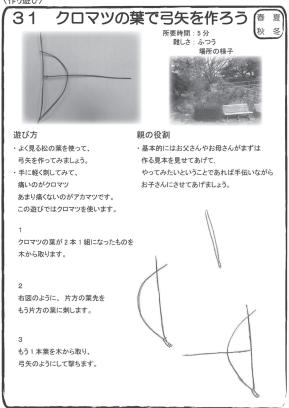
ススキの葉を飛ばしてみよう 30 所要時間:10分 ふつう 場所の様子 親の役割 基本的にはお父さんやお母さんがまずは 見本を見せてあげて やってみたいということであれば手伝いながら ある場所に生えているススキの葉を、 矢にして飛ばしてみましょう。 お子さんにさせてあげましょう。 ススキの葉は手を切る可能性があるので、 持ち方に注意しましょう。 飛ばし方 ススキの葉を 20 ~ 30cmほどに 切ります。 主脈の左右両側に 切れ目を入れます。 図のように持ち、 ○の部分を勢いよく下に引きます。 すると、主脈の部分が飛んでいきます。

〈冒険遊び/作り遊び〉

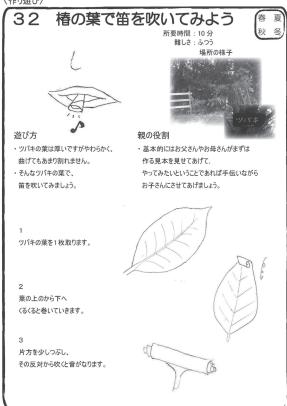








〈作り遊び〉



〈作り遊び〉

